

尾張志

自五十一
至五十二

和書門	
二九二六〇號	類
二函	架
三冊	冊

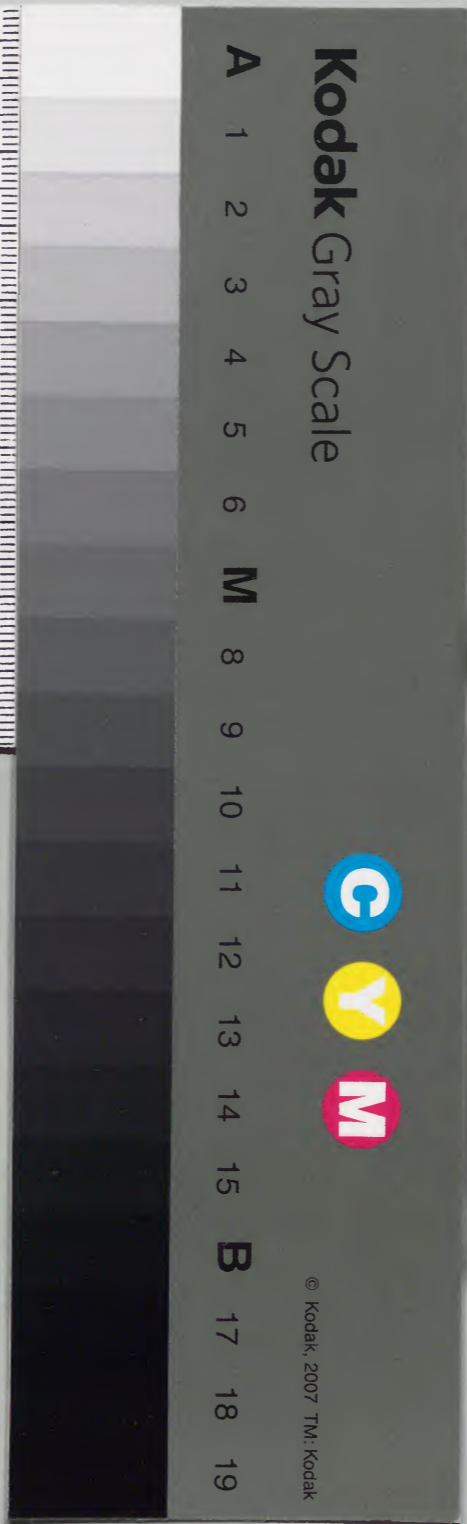


內閣文庫	
二九二六〇	和書
三函	架
二冊	冊

(七三和)

內閣文庫	番號	和 29260
冊數	31 (27)	
函號	173	13

地四三



尾張志卷之五十一



海東部

神社部

牛頭天王

海東部神社部牛頭天王

源田增城

植松

中尾

岡田

尾張志卷之五十一

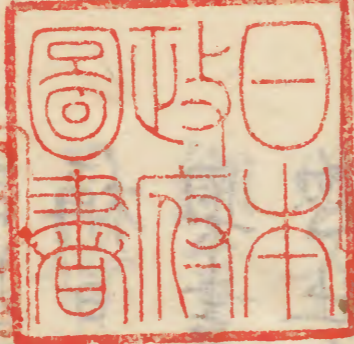
内一〇八五〇號

深田增藏正 詔謹撰

植松庄左衛門 茂岳謹校

中尾八郎右衛門 義稻謹輯

岡田六兵衛 啓謹輯



海東郡

神社の部

牛頭天王社

泮島の白鳥あり社傳ふ素盞為尊なり



と云ふ事あり社記曰日本惣社神位正一位人皇
七代

孝靈天皇四十五年乙卯降臨西海道對馬
洲

欽明天皇即位元年己未自對馬遷座今地
故因本洲之名自是稱對馬今云津島凡以當社
稱日本惣社者載在當社講式及七種問答
奥書按素盞烏尊則我國本土也故稱日本
惣社素盞烏尊初鎮座今居森地而後天平
九年己巳移今柏宮

嵯峨天皇弘仁九年戊戌秋遷座今本社右
の文元禄年中尾張風土記殘編真野耽
網吉見幸和此稿本尔んえたるまなり又云
一條院長徳元年乙未夏天下流疫是以奉

幣勅使 關名即授天王之号云云 社家 日記云云

此の社此地を姓古藤浪里といふ事あり之
水と慥なる説もいふべしなり藤浪里と
いふ名より藤島神社なりと云ふ事あり也
附會ありとて天野信景の牛頭天王辨り
云々牛頭天王乃武塔天神也巫祝為素盞

為尊陰陽家為天道神為泰山府君又々々
牛頭天王出佛說秘密心點如意藏王陀羅
尼經義淨三藏所譯凡天王有十種反身曰武咎天神
曰牛頭天王曰鳩摩羅天王曰蛇毒氣神曰
摩耶天王曰都藍天王曰梵王曰玉女曰藥室
明王曰疫病神王以牛頭天王為疫病神者出于此矣又云天刑星
秘密儀軌三卷不空三藏之所譯也有牛頭天王縛擊
癘鬼禳除疫難之事牛頭天王修法在此儀軌凡牛頭天王為婆斯亭回國之王或為都跋國王或為法界自在國王尾張國津島緣起為豐饒國王亦蓋依秋氏之書依牛頭梵語也譯曰妙香乃天部也
又々々支牛頭天王者西域所祭之神而藥師

如來之教令輪身有衆病悉除功德故我國昔日
傳其修法禳除疫癘者与吉祥天女改過法并行之
遂宣流諸州在々宗之修之皆浮圖家之祭法也
其配素盞烏尊者者蓋依倫後風土記風土記有和銅延長西度撰皆以土俗傳說記之間又附會漢土胡竺之故事專信不可為我神代之事也意倫後國治隅郡鞞浦有
疫隅社信云鞞天王社傳云武塔天王通南海
神女地也然不載神名式則是亦依風土記說
建祠設說者乎凡異域神我國自古祭之者多
矣所謂摩多羅神金毘羅神摩多羅一作曼孛羅金毘羅一作俱毘羅天竺神也此二神異名同躰見阿舍羅頂不空羅索等經漢嵐拾葉集山家要略日書記及二荒山神傳互有異說之云

及叡山赤山神漢三井寺新羅神韓等祠共為素盞
 烏尊其他妙見吉祥舟才天陀吉尼大黑等
 皆強為我國神者不一二夫牛頭天王之祠
 延喜以前建之者多矣所謂廣峯播州祗園京師
 津島尾州大宝牛頭江近等也然式撰之日不載
 之於神名帳也若祭素盞烏尊則朝家豈除
 之乎云云なご又なご津島社と云々なご東鑑初初なご初なご初なご初なご
の旧史実なご秘なご中なご来なごんなごまなごまなごまなご
 社傳をなご奉なごてなご後人の考をなご治なごめなごるなご天野信景なご
 信濃宮の傳になご

後龜山天皇の弘和南朝元年辛酉の冬勅
なごとなごしなごてなご大橋三河守定省社頭を造
 進なごとなごしなごてなご永祿天正のなご間なご織田信長なご公なご討なご小
なごるなご法なごしなごてなご後なごになご屢なご造なご言なごをなご以なごてなご神なご順なごともなご寄なご附なご
なごせなごしなごてなご宮なご殿なごをなご造なごしなごてなご神なご門なご末なご社なごまでなご造なごるなご
なご美なご麗なごをなごとなごせなごるなご事なご世人の知るなごるなご不なご也なご法なごのなご神なご
なご器なごはなご瓜なごれなご紋なごをなご用なごあなごるなご事なご信長公のなご所なご
なご寄なご附なごのなご所なごよりなご起なごりなごてなご今なごはなご神なご紋なごのなごとなごくなごしなご
なごアなごとなごぞなご六なご舟なごのなご神なご祭なごハなごチなごになご及なごびなごてなご平なごななごらなごもなご
なご糸なご詔なごの人なご絶なごるなご事なごなくなご法なごがなご関なご東なごのなご事なごよりなご
なごあなごゆなごみなごとなごるなご事なごもなごあなごらなごずなごるなご事なごもなごあなごらなごずなごるなご事なごもなごあなごらなごずなごるなご

比影のきき勢易の御社なり

本社

素盞烏尊をこしめ大己貴命又左小八王子右子七名の神等とて十七座あり

拜殿

祭供殿

御供所

瑞籬

樓門

南門神庫

文庫

神厩

繪馬堂

舞臺

鳥居

御井館

手水

館等こしくく在處次第森なり

末社

居守社

本社の南あり祭神三座素盞烏尊の幸魂左ハ疹神右

柏宮

本社の南にあり祭神素盞烏尊の幸魂なり天曆二年神祀

一王子社

八王子社

大國社

若宮御前社

當下御前社

王御前社

米御前社

矢御前社

熱田社

瀧御前社

神社

媛命をまつるあり

二社寛文の記まて本社に相懸り

大國靈神

神

瀧御前社

熱田社

矢御前社

米御前社

王御前社

當下御前社

若宮御前社

大國社

八王子社

神

瀧御前社

熱田社

矢御前社

米御前社

王御前社

當下御前社

若宮御前社

大己貴命又左小八王子右子七名の神等とて十七座あり

素盞烏尊をこしめ大己貴命又左小八王子右子七名の神等とて十七座あり

祭神三座素盞烏尊の幸魂左ハ疹神右

素盞烏尊の幸魂左ハ疹神右

素盞烏尊の幸魂左ハ疹神右

素盞烏尊の幸魂左ハ疹神右

素盞烏尊の幸魂左ハ疹神右

素盞烏尊の幸魂左ハ疹神右

素盞烏尊の幸魂左ハ疹神右

素盞烏尊の幸魂左ハ疹神右

素盞烏尊の幸魂左ハ疹神右

素盞烏尊の幸魂左ハ疹神右

素盞烏尊の幸魂左ハ疹神右

素盞烏尊の幸魂左ハ疹神右

素盞烏尊の幸魂左ハ疹神右

素盞烏尊の幸魂左ハ疹神右

素盞烏尊の幸魂左ハ疹神右

素盞烏尊の幸魂左ハ疹神右

素盞烏尊の幸魂左ハ疹神右

素盞烏尊の幸魂左ハ疹神右

素盞烏尊の幸魂左ハ疹神右

むとのひまひけとを別がしまいらるる相まうし其
粟ぐとを座として粟の飯をあるも存八年を經る
武塔天神ハこいらの沙子を引具してかの足家
にこころをたすひ一社の名をかり給ひしるるを
とせとすひて其志を謝せんとの事す我ハ速須佐
雄神なり天下に疫癘をやるべし第の端を門にハ災
をのぞるべしとある給ひしるる事す其災をまは
けり今よりのおち菴民 將來か子孫ありとひきき茅の
端をこぼれ疫癘の災をのぞく事すとの事す
しよし公事根源蓋蓋内傳等よりん
児御

前社

曰ふ子あり若王子
の神をまつる

大社御前社

曰ふ子あり大山

外宮

南門の内子あり豊
受太神宮をまつる

内宮

曰ふ子あり世神名不詳
東西小なり天照大

船着御前社

曰ふ子あり庭高津日神を
まつる

多度社

南門の内西の方子
あり天目一神をまつる

南門の内西の方子
あり天目一神をまつる

弥五郎殿社

本社の南西の方子あり
武内宿祢をまつる平定

後村上天皇の正平元
年七月十三日夢想の告ありて堀田弥五郎正恭其祖神

武内公をまつる時の人其系を名すりて

屋根御前社

曰ふ子あり庭津
日命をまつる

星宮社

塵宮

本社の西子あり聖神
とまつる

辨財天社

稲荷社

曰ふ子あり山神とまつる

千手社

一切経社

曰ふ子あり

毘沙門社

橋守社

石橋の南
あり

愛宕社

鐘樓

本社の北東子
あり鐘の塔小

神宮寺

弥五郎殿の山あり慈覺大師の能持

茶師并十二神將の像を安置す

尾張國海東郡津島牛頭天王鐘應永十年癸未十月
廿七日願主沙弥道叟大工沙弥道忍とんをまつる

境外摂社

三寶荒神社

社取町子あり中央
に天知迦流美豆

鐘樓

本社の北東子
あり鐘の塔小

尾張國海東郡津島牛頭天王鐘應永十年癸未十月
廿七日願主沙弥道叟大工沙弥道忍とんをまつる

姫左右子奥津彦 **姥社** 大宮の川の方うバケふところと
奥津姫とまゐる

蘇民将来が裔孫とつる老翁と老女がとみかき西也
素盞為るる地子光輝し移ひし時老女子神注し

移ひてとあり移ひし社を建て **山神社** 米の庄町
其姥をたつとつる社

大山祇命 **金燈籠社** 境下うなとつる
座

所子あり大市帳をたつ左右子 **土御前社** 今市場町
大歳神宇賀魂神とまゐる

土御祖神 **八剣社** 下構の橋北
とまゐる

造替遷宮之事

四條天皇の仁治年中 本社遷宮 神主牛王
九生年九

歳の時此より遷宮
帳残欠より

應永十三年 戊戌十月廿七日 弥五郎殿遷宮

同廿三年 戊戌六月五日本宮遷宮

永享三年 亥十月十八日 弥五郎殿遷宮

同九年 己十二月五日 將軍源義教造替遷宮

嘉吉二年 戊十一月八日 居森社遷宮

文安元年 子十月十七日 弥五郎殿遷宮

長祿三年 卯十月十三日 弥五郎殿遷宮

文明四年 辰六月六日本社及蛇毒神社遷宮

是前將軍源義政所命也

同十八年 午十一月十三日 弥五郎殿正遷宮

永祿八年 壬十二月廿日 本社及八王子遷宮

是前將軍源義輝所命也
天正七年卯月^日遷宮^{闕く}是右丞平信長所命也

同九年己九月七日居森社遷宮

同十七年己九月十五日居五郎殿遷宮

同十九年卯九月七日居森社遷宮

文祿二年造替^{所命也}過宮前^{闕白}豊后秀吉

慶長十年己二月廿七日修理是左中將源忠吉君正妃經營之

元和五年未五月七日修理是大相國台徳公所命也^ち歴代の造替^{修補}を^と界古遷宮^記の^りため

應永廿三年丙申六月五日

津嶋牛頭天王本社御遷宮礼地之次第

奉行 藤原三郎五郎太丈範宗

一番 御榊 孫次郎 左近次郎

二番 御鉾 満太丈

三番 御師子頭 彦太郎太丈 六郎太郎 龜務 徳次郎

一番 王子之次第 潘門次郎 徳橋

東
一王子 藤原藤六太夫宗善 藤原与五郎太夫

二王子 藤原助五郎太夫宗光 彦太夫

三王子 藤原七郎太夫範勝 坂東太夫

四王子 刑部太夫 藤三郎太夫満太夫甥

五王子 九郎太夫 左衛門五郎太夫

六王子 兵衛太夫 乙若太夫

七王子 藤原右馬太夫範貞 三郎太夫

二番 王子之次第 与五郎太夫

八王子 藤六太夫 彦太夫

九王子 助五郎太夫 彦太夫

十王子 七郎太夫 坂東太夫

十一王子 刑部太夫 藤三郎太夫

十二王子 九郎太夫 左衛門五郎太夫

十三王子 兵衛太夫 乙若太夫

十四王子 右馬太夫 三郎太夫

御舉 御出之次第

一番 御幣 藤原刑部太夫三郎太夫之親父

二番 法華經二部 神子 牛神子

三番 御陀羅枝 御調渡役人 笹場村人之役

左衛門九郎太夫

兵衛五郎大夫

过三郎大夫

左衛門四郎大夫

兵衛四郎大夫

四番 御劔之役人之次第

藤原七郎大夫範勝

藤原与一太夫光秀

九郎大夫之子息盛徳大夫

藤原与五郎大夫

兵衛大夫

五番 に十五王子 藤原右馬太夫範貞 坂東大夫

六番 御正躰 左近太夫

七番 天盖 左一神子 右一神子

八番 御几帳 藤原藤六太夫宗善 藤原助五郎太夫宗光

御輦 神子 生年十歳 紀近三郎太夫語勾當太夫弘重

神主 幼少 語 太郎太夫弘盛 語

御輦之脇 三郎太夫 彦太夫 行事太夫幼少 代

御繩 右馬太夫子息市松太夫 太郎太夫子息徳法師太夫 行事太夫之

右左の 左右の論 くまよてさるる

御續明 役人 刑部太郎 兵衛五郎

- 一 御幸の間途を三重子かざるすゑをひろ
けし平あふこもとしきそのうにあも
みのぬのむしき
- 一 起砂とりしおすゑをひろくもすゑを
うちひれまゐ
- 一 西近宮のと記し系統二七日神主勾當
二七日なりしきんそくづち火よのほ人と
一七日ハ夜籠一七日禁足浄二一の籠と
二七日なりしきんそく

一 浄二一の浄衣本社末社とも浄衣社

此時と結浄几帳を結の敷方丈は
浄几帳の錦入

- 一 浄衣社の時と結をまゐらるゝ
よくやしうをまゐらるゝ
ころへしんそくけ一日

一 次日伶人舞えり

一 やぬさ知んり

一 くこの二統ハきんちんひびく
まひり

一 まくのぬのハちちやもハ六ちや

一河ゆみのぬのいおす七

一沙さくら木沙走くの返人籠七日

文明四年壬辰六月六日

尾州津嶋牛頭天王御歸座御遷宮礼地次第

奉行

四郎右衛門太夫定久

一番

御神

五郎二郎

二番

御神鉾

光太夫
乙若太夫

三番

御師子頭

衛門二郎
彦三郎

一番 王子次第

西 一王子

藤原

兵庫助太夫宗光

藤原

右馬太夫長貞

東 二王子

藤原

孫右衛門太夫

平

坂東太夫吉氏

西 三王子

藤原

七郎太夫宗勝

光太夫吉定

東 四王子

藤原

三郎太夫弘氏

乙若太夫吉重

西 五王子

語氏

太郎太夫光弘

語氏

行事太夫信秀

東 六王子

彦太夫弘信

板屋太夫吉清

西 七王子

九郎太夫弘氏

小三郎太夫弘久

二番 王子次第

東 八王子

兵庫助太夫

右馬太夫

西 九王子

孫右衛門太夫

坂東太夫

東 十王子

七郎太夫

光太夫

東 西 東 西

十一王子 三郎太夫

乙若太夫

十二王子 太郎太夫

行事太夫

十三王子 彦太夫

板屋太夫

十四王子 九郎太夫

小三郎太夫

御輦御出次第

一番 御幣

彦太夫

二番 法華經二部

宮松市子
アリ市子

三番 御多羅枝

笈庭村人

孫左衛門太夫信久

左京進太夫信安

新左衛門太夫吉家

藤原 民部丞太夫信吉

依指合一人タラス

役人

四番 御劔

鶴太夫

赤法師太夫

九郎太夫

語氏 三郎次郎太夫弘久

依指合一人タラス

五番 十五王子

右馬太夫

坂東太夫

六番 御正躰

板屋太夫

七番 天盖

左一 金紙金泥仁王經乙市子

八番 几帳

兵庫助太夫 孫右衛門太夫

御擧 神主

紀長吉 勾當太夫弘秀

御擧 脇

三郎太夫 行事太夫

御繩

太郎太夫 依指合スラス

御續松後人

彦左三門 五四郎

右永永廿三年六月五日御遷宮記文明四年

六月六日御遷宮記御遷宮記ハ神ノ古雅ナシテ

其式もハ 匠人の姓名を志るに是より奉 懸

多シクハ 祭ノ けニトシカレトシ 儀ト

例祭 正月元日

小朝母の神 饌執り有り

同二日 同三日

同日 饌

四日

蕨民祭 社人何れも 姥ノ 露ヲ 柿ノ 枝

同日 饌

五日

朝七種のあり 粥と調を

同日 饌

六日

春縣の神事 禊祓の儀 出座 勾當太夫 寺ら

つとめる 淋とて 田とて 牛とて 出せし 素袍者の

男子 牛ひつと 大なる 曲おと 脊負て 乙若太夫 指揮

して おろした 其次子 右馬太夫 寺ら 古キ 瓶と 湯を

下 免ぐり 又 行司 太夫 寺ら 寺ら 寺ら 寺ら 寺ら

寺ら 寺ら 寺ら 寺ら 寺ら 寺ら 寺ら 寺ら 寺ら 寺ら

寺ら 寺ら 寺ら 寺ら 寺ら 寺ら 寺ら 寺ら 寺ら 寺ら

て人よ色ハ其人ノ水あびよくしむる人拒 **十二日** 子

子テ浴せざれば捕へて水中ニ投入る事 **同夜** 車樂此船割各古屋崎河段田瀬江佐

事 祭子ありける町このものありかざりて後 **十三日** 神輿

らるる立白のし子大なりをたき川中子あり **十四日** 船祭武樂暮合

白豆のとり **又山車** 又山車を仕組 **又山車** 又山車を仕組

其上子車樂を乗以上の辰子芭葉此大 **又山車** 又山車を仕組

此大掛打をせき井竿小ゆひつけて **又山車** 又山車を仕組

馬連のこくく三百六十 **又山車** 又山車を仕組

真の柱ハさくぬき出 **又山車** 又山車を仕組

とみ **又山車** 又山車を仕組

小表 **又山車** 又山車を仕組

兎の樂 **又山車** 又山車を仕組

人麻上 **又山車** 又山車を仕組

座塘下 **又山車** 又山車を仕組

いふ **又山車** 又山車を仕組

いふ **又山車** 又山車を仕組

いふ **又山車** 又山車を仕組

いふ **又山車** 又山車を仕組

いふ **又山車** 又山車を仕組

いふ **又山車** 又山車を仕組

いふ **又山車** 又山車を仕組

いふ **又山車** 又山車を仕組

いふ **又山車** 又山車を仕組

いふ **又山車** 又山車を仕組

いふ **又山車** 又山車を仕組

社領

丹羽郡東野村より百二十七石五斗寄附
永享七年七月十日 巖有院君の
御朱印を賜ひ保四年丁未四月廿日
源教公天王島
より宛文五年七月十日
御朱印をとりたまひて今有り

古證文古文書

仁治三年三月紀範長

法作義経状とそめ天文九年十一月

織田弾正忠信秀の治文天文廿三年三月

信長公の治文其外豊長秀吉云

性高院君福島正則 流川一益 佐永式部

卿法印壽昌内大臣信雄公田中兵部大帥

吉政朝倉義景原田右衛門等以下數十人

の治文甚多く有りてつくづく

神主氷室氏

むらりより紀氏より神主職をつとむ
仁治三年三月津島社神主文章生

紀範長法師法名西行の子息右近將監範廣より父西
行子射して不孝たりより義絶し神主職を十歳の幼
子牛王九子ゆづり言上り免許ありて
牛王九波成補せられ義絶の執達状一通今津氷室赤子
所存古書の文辭推執たふひて
子希り古状あり其後 後醍醐天皇の皇孫尹良親
王の御子正二位大納言良王君をとりて尾辻子ありて
永享七年三月廿九日津島天王の神主が赤子ありてたまひ
浪合記にんえ其子良新君神主職を他り
とぞ其後堀田氏及び大橋氏より家を嗣承あり

神官

堀田氏 河村氏 真野氏 服部氏
南朝の遺臣より良王に侍ひし人の裔也

神樂方

後部氏 林氏 平登氏
大矢部氏 氷室氏の裔也

神子方

堀田氏 宇野宮氏 岡田氏 服部氏
外務家ありて南朝より朱印の士又本貫の地

士等より由緒
よき家柄あり

勅使殿跡

拜殿の南あり
一條天皇北正曆年中

嵯峨天皇の弘仁元

奉幣ありし

神庫跡

八王子社の後子あり
天文年中の洪水小庵

御既跡

南門の東後子あり
六月多礼の附りに
神馬をつらぐ

牛のついでに地子
東門の内にもあり
牛形を造り

其外一切經藏跡

多宝塔跡樂

所跡等の名記甚多

神木

むしより根と
九月九日の大風
つぎより根あり

御贄川

本宮川の末々
西川ともよ
正月土月

二年四月
左中将平信忠
御所細者
たましし

漆部神社

定喜神名式
北海部郡八座
のちら丸初小

のせりり
今の板本
にウルシベ
と候名を付

らりら
ぬりべ
とよむべ
元龜本の

尾張國神名帳
に塗部
とくけ
をも知べ

民部省
同帳の
殘缺
も漆部
大明神
神田

七十二
東有餘
仁壽三
年二月
加再復
實

天智天
皇三年
五月之
御進遷
所祭神
靈木

花咲耶比呼也と云くて、今ハ（一）も（二）し（三）し（四）く（五）者郡又海西郡美濃
子（一）つ（二）る（三）もの郡れ（四）も（五）さ（六）る（七）行（八）く（九）日（一〇）地
く（一一）も（一二）知（一三）こ（一四）は（一五）と（一六）む（一七）べ（一八）き（一九）る（二〇）也

諸餗神社

延喜式内（一）其板行本小七口ク（二）の（三）の
つ（四）け（五）し（六）こ（七）る（八）に（九）あ（一〇）り（一一）し（一二）る（一三）の（一四）右（一五）例（一六）は（一七）く（一八）を（一九）也
尾張神名帳の一本（二〇）に諸桑とも（二一）い（二二）は（二三）す（二四）今
法桑村（二五）に海して白山の社（二六）と（二七）し（二八）る

國玉神社

式内なり凡國王此神大國王の神（一）は（二）法（三）國
とも（四）小（五）其玉と経言し（六）後（七）へ（八）る（九）靈（一〇）神（一一）と（一二）祀（一三）は（一四）く（一五）
少（一六）く（一七）者（一八）玉（一九）の（二〇）中（二一）嶋（二二）郡（二三）尾（二四）張（二五）大（二六）國（二七）靈（二八）の（二九）神（三〇）社
今國府宮（三一）と（三二）し（三三）る（三四）也（三五）者（三六）郡（三七）玉（三八）の（三九）名（四〇）を（四一）
知（四二）信（四三）し（四四）こ（四五）る（四六）又（四七）ハ（四八）者（四九）郡（五〇）に（五一）功（五二）あり（五三）別（五四）神（五五）と（五六）奉（五七）
國帳（五八）も（五九）從（六〇）二（六一）位（六二）一（六三）本（六四）正（六五）國（六六）玉（六七）名（六八）神（六九）と（七〇）有（七一）り（七二）て（七三）名（七四）神（七五）
大社（七六）と（七七）し（七八）る（七九）今（八〇）廣（八一）き（八二）こ（八三）も（八四）四（八五）地（八六）も（八七）知（八八）る（八九）人（九〇）あり
藤島神社
式内又本國帳に從三位藤島天神と云ん（九一）え（九二）
より今秋竹村に（九三）し（九四）る（九五）藤島明神と（九六）し（九七）る（九八）也

之追郷遠島村ハむく〜れ後を山もさかり
〜さ河くバ目〜地所を〜秋竹もる海の
郷の〜ち〜〜〜女〜真野時綱著〜
〜藤波私記とらよお〜藤島里又藤波里
と洋島の古名れ〜牛頭天王も藤島
神社る〜〜〜へ〜た〜〜古書〜〜
〜〜〜

宇太志神社

式内すゝ本國帳に従三位宇太志天神と
志とも民部有回帳も國津宇太志明神

神田三十八束餘

天武天皇元年壬申十二月建宮殿尔未及寛

治二年戊卯卯ハ誤字辰なり加再復神境十一圍と見

え〜今海西郡鵜多須村い〜

白鬘大明神と〜海西郡の〜ち〜の〜

かくき〜んあゑ
し〜べ〜ん

由乃伎神社

式内すゝ本國帳小従三位由乃伎天神と紀

〜尾張風土記も雪田山由木明神とんえ

きり今抽木村あ〜神明社と〜

府志より神木村の隣村日置村八幡社を式内
由乃伎神社のより云々今いづれにても

伊久波神社

式内あり、本國帳より從三位伊久波天神と

あり、其一本より生来とも書り府志より中島

郡三宅村の生来明神の社を以て式社と云々三

宅村あり、郡より追々れどもあるべし

憶感神社

式内あり、本國帳に正一位憶感名神と云

元文徳實録より仁壽三年六月丁卯以尾張國

憶感神列於官社と云々、三代實録より貞觀

七年十一月十七日甲午授尾張國從五位下憶感神

從五位上と云々、以て社今より神守村憶感山吉

祥寺と云々、真言宗の寺地より神明白山と三神

相殿に坐り、吉祥寺、即ちある社の別あり、感

あり、今此地より北の方より

洪水よりあひつひて今の地に移り、今も

甘樂社

甘村井村より坐て八幡と称す、カムラ井と云

村名、旧カムラキといひ、明治より子屋

キをいひ、音便より云々、語るるを又

井と假字たぐへは、近世風の俗語なり郡
名の春部と春日井と今とある日例也
此神社も本國帳に正一位甘樂名神と
ミクハラ平
了神階正一位と名神に近きたまふ大
社の例なり今に社地を狭くし、四地とも
えぬ心とよぶかきも也、此神社は
既廢ゴウなり今に八幡社に存せし傳
の社もあむさねもは社をわきて隣
村逆色のうち其ツとさす、古社地と
あきもん糸コにきり

新屋社

本國帳に從三位新屋天神とある一本
小正四位上とも江上莊新屋村にあり

馬島社

本國帳に從三位馬島天神とある一本、正四
位上とも間島村にあり、白山社とあり
或、明眼院の地主天神社とあり

中杜社

本國帳に從三位中杜天神とある一本に

正四位上ととも赤漆湯の事集小中森とよ
みくふふれど今なつ雲とよふ里をく松葉庄
雲村の大明神ありべしはか子中たとふ村
ありされは為村も実ハ中たもさうりか
さ阿ぶ中雲とよふりさくくえく一本五

小杜社

本國帳子從三位小杜天神とあるは今ま
不効はど大雲村天王社と大雲小雲まが

鳥取社

本國帳子從三位鳥取天神一本正四位上
とよ今まさくはく其畧も

宗形社

本國帳正四位下宗形天神とあるは今
廢し其畧も

大井社

本國帳從四位下大井天神とあるは
集統子大井村子明神社あり大と犬と字畫
通けさバあまうたさおくとはり犬井村の
明神ハ大社とあ社左下熱田社熊野社

右に春日社山神社あり鎮坐年月知るに
中じうし長尾掃部卿より人今北地に移し
よりいぬりて西地也日村教の中子あり
例祭正月十八日里民神饌を奉仕南村に
村君より家十四家あり年とりて祭るをせ
常る面どしき家柄とて其十四家ハ清水
大河内伊波青木泧川三和武友後部
小林等なり同苗の者ありて十四人なりむしりの地士又泧川
の四家七名字のうちの一族も阿るべし

河葉社

河葉社 郡子数三三三三三三一本正四三三

本國帳に正四位下河葉天神とありし
を一本に從四位上河氣とて今川也村に坐
て春日大明神とて例祭正月十七日的射の
式あり里老の傳へし此社とて八町をり
小北方下田村乃地ありしを後承るふり
て天正三年修葺の棟札あり

相江社

本國帳に正四位下相江天神とありしを
肉依谷村にすし今三社明神とて

伊福部社

伊福部社 郡子数三三三三三三一本正四三三

築川八幡社

本國帳子正四位下伊福部天神とあり伊斐
村子坐て七社明神とあり伊福部連八尾張
氏の同祖天香山命の後裔のより新撰姓氏
録まゝより攝社辨財天社八幡社天王社あり
此地名今廢れり詳々ぬどもくハさも
やとあがりき社あり民部省圖帳殘編小尾
張國海部郡築川八幡正歴元年一本二依
年と云
勅夢之事而以藤原仲遠而奉幣帛終給附
神田百束自男山八幡牙見遷也とあり今

中切庄哉津村子八幡社ありて社カ子ある
川を柳川といひ又柳の月名より田ハナ地の字あり
直會ナカミといふ地名も祓毫くハあるより古
社のやうに社況より直會といふ地名跡
ありハ古社の互地もある例多クハ柳川より
ハ築川の遺名もあはむ

伊久波社殿相

土田村子ありむ社ハ建久年中子頼朝將軍
此造立のより造之より長十一年丙午年
性高院君社頭拜殿鳥居等まぐり造営

ありて欽仙の絵御奉納あり同年八月殺生
等禁止の御割札とも存ひ墓目御祈禱作
付しき御矢三筋御奉納しき相殿に
ありて伊久波天神ハ永禄元年戊午八月未
縁起とらひありしものありて後三位伊久波天
神と記し其の故縁も祈年國幣ありて
祈る社のやうに之をど波式内より伊久波神
社よりべき流もいふに於て文も拙くすし後
より案に中島郡三宅村なる生業神社と
ありし多しありし三宅村なる生業ハ地名

詳し現存し繪ありしを祀官社とて此社乃
在りありべしとて本社八幡社例系八月
十四日十五日より社歴三十石とて号長十一年
午十月十五日
性高院君より流り

神明社 天王社 水天社 天神社

四社日村あり
八幡社

追間村あり境目の事社ハ神明社天王社あり
稲荷社 天王社 飯繩社

三社上条村子あり

荒神社 辨財天社

二社今宕村子あり

八大明神社 山王社 白山社

神明社 稻荷社

五社甚目寺村子あり

八幡社 白山社 神明社

三社本口村子あり

文珠社 八幡社 神明社 社宮司社

四社長牧村子あり

八幡社

花常村子あり

山王社 天神 山神 社殿 社宮司社

五神三社坂牧村子あり

神明社

中島村子あり

八王子社 神明社

二社山弓湯村子あり

神明社 天王社 富士社

三社東条村子あり

神明社 天神社

二社堀之内村あり

阿波手社

上萱涉村あり境内の末社あり八剣社白鬚社

金山彦社 熱田社 銭神社あり

天王社

同村にあり

三島社

中萱涉村あり堀之内の末社あり社宮司社あり

三社大明神社 八王子社 八幡社 月宮社

四社下萱涉村あり

春日社

八ッ屋村あり

八剣社

万場村あり堀之内神明 春日 日吉 天王

白山の末社あり

八幡社 天満天神社

二社同村あり

八幡社

白長須賀村あり

白山社

八 若田村子あり

土宮神明社

八 助光村子あり 文明土 卯年 国九月の棟札あり

七 社明神社 白山社

二 社 佐屋村子あり

三 輪社 天王社 社宮司社

三 社 榎津村子あり

神明社 秋葉社

二 社 江村子あり

神明社^二 秋葉社 山神社 白山社

五 社 東福田新田子あり

神明社 秋葉社

二 社 系屋新田子あり

三十番神社 秋葉社

二 社 茶屋後新田子あり

神明社

七 島新田子あり

神明社

七 島新田子あり

神明社

友言若新田子河り

熱田社

小川新田子河り

熱田社

所二

神明社

所二

大明神社

五社西福田新田子河り

三十番神社

福田新田子河り

神明社

白山社

熱田社

三社畷永村子あり

山縣村 白山社

神明社

所二

色里村子河り

神明社

供米田村子河り

八幡社

天神社

鈴宮社

白山社

神明社

立社戸田村子河り

熱田社

神明社

喜田村子河り

八幡社

後部村子あり

山王社 富士社

二社松下村子あり

三社権現社 七社明神社 浅間社 稻荷社

四社砂子村子あり

秋葉社

湊須賀村子あり

五社社

馬場村子あり

白山社

三本木村子あり

八劔社 諏訪社 箱根社 田神社

四社西条村子あり

七社明神社 天神社

二社子高寺村子あり

天満天神社

新家村子あり

天王社 八幡社 辨財天社

三社伊麦村子あり

神明社 稻荷社

諏訪社

酒^シ宴^{サネ}村^ノあり

神明社^四 風宮社

五社^江新田村^ノあり

山王社 白山社 神明社^二

四社^江新田村^ノあり

神明社^二 鹿島社

三社^江新田村^ノあり

富士浅間社

吾太新田^ノあり

神明社^八 殿相

新田^ノあり

神明社 八幡社

二社^大新田^ノあり

神明社 熊野社^{春日} 白山社^{熱田} 殿相

二社^大井村^ノあり 二社^日新田^ノあり 國帳集説正四位

下大井天神の細注子穂保庄有犬井村明神之

祠蓋大与犬字誤者歟といふハ杉おんつる

正月十八日例祭子村君より子家十四家あり

其家より神饌を供するを嘗る式例あり

十四家と云ふは後醍醐清水大河内伊豆加賀
 武蔵源川三和由小林佐後等十各字を人数
 十四人ありと云り府志に恐是南朝遺孽従良
 王来津島是亦其族也と云るはさもあるべし又
 当村中初に長尾掃部助と云ふ人の古宅跡あ
 り其人世社と云ふをいふも傳へいふなり
 八幡社 神明社
 二社落合村あり
 八幡社
 一色村あり

天満天神社
 須賀村あり
 八幡社
 依尾村あり
 八幡社
 依田村あり
 八幡社 貴船社
 日笠村あり社傍ありて八幡山光明院と
 云ふ当社の頼朝將軍造立のよしといふこと
 なきも鎮座の年月ホキと云く詳なり

應神天皇神功皇后ありて、境内甚ひろく
 古社とむがき神地なる所、府志に由乃伎
 神社ありて、も報あけるもさるることあり元
 來八幡ありて、あはれむ古流書なるもある事
 六、光明院の降下ありて、例系とすべし
 例系正月十五日世様ヨシヤマの式あり、小豆粥を煮
 て奉る豊凶とす。新く、以奉る日郡神尾
 村七社の社も、同例あり、八月十日走馬貴
 船社、九月九日と例系とす
 筏場社 白山社 石神社 菅天神社

四社 津島村あり

天王社

津島新田あり

天王社

津島草平新田あり

天王社

八幡社

二社 津島大野山新田あり

神明社

辨財天社

二社 津島西川堀新田あり

神明社

神 涉谷 淵高 新田 あり

神明社 天王社所ニ

三社 涉谷 所方 新田 あり

六社 権現社

見 哉 村 あり 南社 もと 白山社 としり

八幡社 神明社

二社 根高村 あり

諏訪社

八龍社

神明社

小 涉村 あり

神明社

古川村 あり

神明社 天王社 八幡社

三社 唐臼村 あり 一社 一坑内 神明

社 天王社 の 中 写 あり 奇 石 あり 形 碓 あり

子 村 名 あり 石 の 長 サ 三 尺 横 式 尺 五 寸 許

厚 サ 一 尺 許 あり 志 中 子 穴 一 尺 許 あり 穴 径 五 寸 許

源 サ 二 寸 許 あり 府 志 あり 按 其 形 大 殿 礎 石 誤

為 碓 耳 と し り あり あり あり

八幡社

稲多村あり

神明
大明神

社相
殿

白山社

神明社

五社中一色村あり

白山社

頭長村にあり

神明社 天王社

二社半古馬新田あり

熱田社

社宮司社

神明社

浅間社 諏訪社

五社鹿伏兔村あり

八幡社

八剣社

稻荷社

三島社

神明社

六社西之森村あり

三明神社

今村あり

八剣社

天王社

神明社

四社須賀村あり天王社富吉天王と稱す

八剣社と同境地と例祭六月十八日走馬

と公と十七日夜試樂車樂あり

熊野社

総橋村あり

春日社

小塚村あり

山王社

神明社

二社川

二社川

八剣社

神明社

二社

二社

八剣社

熊野社

二社

二社

八幡社

天王社

二社

二社

春日社

下田村あり

大明神社

八剣社

二社

二社

日割社

大坪村あり

七社大明神社

神尾村あり

永享元年の権札あり例系正

月十五日奉射式并世様式河り小豆粥を考て
菅首を穀物の豊凶を交る奉り日置八幡
社に因り

神明社

令柳村にあり

神明社 白山社 辨射天社 面社

四社高菴寺村にあり面社、追分子幼語以此面
春元龜の以多度神社祀り小串氏より傳
來し、よりあり面を祈り子靈驗あり今面足
社と稱く尼僧を造りて也

神明社 八幡社 天王社

三社白濱村にあり

若宮八幡社 神明社 住吉社

白山社 立山社

立社百所村にあり

山王社

半田村にあり

春日社 白山社

二社百所村にあり

穗歳社 三番神社 熊野社 辨才天社

四社南津古村あり
八幡社

椿市村あり

神明社

下切村あり

熊野社

古濃村あり

神明社 八龍社

二社南河田村あり 八龍社を龜宮とす

千引村あり

神明社

北河田村あり

辨才天社

千引村あり

熊野社 秋葉社

二社系苅村あり

白山社 権現社 弁才天社

三社勝幡村あり

八劔社 八幡社 白山社 天神社

秋葉社

五社蜂須賀村あり

八幡社 神明社 八剣社

三社丹波村あり

神明社

中橋村あり

神明社 山王社

二社東溝口村あり

神明社

花正村あり

十二社権現社 辨才天社

二社叢山村あり

白山社

金岩村あり

八所権現社 神明社

二社花長村あり

高宮社 風宮社 月宮社

三社ニッ寺村あり 享和十五年庚戌九月

五日羽柴少将福島正則修造の棟札あり

正則ハ高村出生の士ナシバ高村ニシテ

述レタリ

八幡社

愛村子あり

神明社

小浜村子あり

八幡社 天王社

二社方領村子あり

八幡社

古道村子あり

八幡社 白山社

二社富塚村子あり

神明社 社宮司社

二社沖島村子あり

白山社 神明社

二社木折村子あり

八剣社 神明社 秋葉社

三社木田村子あり

白山社 大山祇社 愛宕社

天道社 天神社

五社藤田村子あり

縣社

小橋方村あり

貴船社 山神社 神明社

三社乙子村あり

九月廿八日長尾三位法印修造の権札あり

社ハ豊臣関白秀次公の氏神なり

神明社

神明社

大木村あり

神明社

正寺村あり

志津天王社 八剣社 三體神社

三社宇治村あり

八幡社 諏訪社 神明社

三社蛸尾村あり

神明社 白山社 辨才天社

四社寺田村あり

天王社

牧野村あり

神明社

依折村あり

白山社 神明社 八幡社

三社 寺塚村 子河り

白山社

天小 荊村 子河り

八幡社 寺塚村 子河り

三社 寺塚村 子河り

志朝 天王塚 八幡社 三賢社

尾張志卷之五十二

小田切傳之丞忠近謹圖
杉本愛七良永謹書

尾張志卷之五十二

深田增藏正韶謹撰
植松庄左衛門茂岳謹校
中尾郎右衛門義稻謹輯
岡田六兵衛啓謹輯

海東郡

寺院

天台宗

明眼院

林本第...
小田...

取

馬治村小阿りく五太山

舊ハ直下太山とのいふ
永禄七年三月書

太山寺と云え安三年寺なる寺縁記太山安養寺とあり
五太山と云ふ寺安以後のゆかりなり
安養寺と云ふ春日井郡野田村密苑院
此未寺なり

桓武天皇の延暦二十一年の草創を聖圓上人開基此靈場也上人ハ賢智聰敏にして法典の奥義を究め學徳兼備此嘉名普く宗闋え善道の緇素有信此を後存系して資財を施入し遂に南寺を建立せりかくて南寺の基縁の他より本佛所縁の茶師以来を安

置して十八の坊舎殿堂佛閣これとく造堂して十八坊と云ふ西善坊宗持坊宝仙坊東光坊才藏坊法藏坊法華坊善明坊正善坊自性坊東泉坊福寿坊善學坊勝智坊行智坊理教坊西光坊大智坊等之其後慈魚大師源信修築るも南地より來りて里民を教化して慈魚ハ自の木像を彫源信ハ大日尊容を彫刻して塔中より安置す又樓門の二王ハ運尊が作す奇巧にして法守白山社ハ始祖上人の幼弟と云ふ南庄及隣村十

ニテ所の氏神と云ふ事三月廿日此所祭
古代より怠惰なり一徳しども元弘建武の隆
祢ふあひ兵火に焼亡せし院中若干の寺
院僧坊悉く喪收せし事なるの茶師佛と
同祀自画彩像及二王像の火災とまぬれ
し由なりと云ふ一徳記に云く其後清
眼傍都此靈場の荒廢と云ふ事延文元丙申
年より日二年小むりて本堂坊舎大半を
再建せ造りぬに清眼と中興此同祀と
或は以清眼茶師の靈を感得しと眼科
科

此秘方療書一巻を授けり後其授法を
以て衆人と療せり一人こゝろ平愈せり
海、ありきかゝるに存る寺即眼科此宗
源と有りて後傳歴代此道と相承せり寛
永九年壬申

後水尾上皇、皇女三宮眼病と患治ひあま
祢く名醫等小療法と云ふをたまひしども
さう小効驗ありしと云ふも尚寺の眼科
天聰子達し勅詔ありしと云ふ傳圓慶を
療治せしけさせ治り速に御平愈し

一はば源く

敷感ありて即明眼院の称号を勅宣し給
ひ又浄會初秋の経冊五十枚浄茶忌及
金屋風をそとの黄金十枚と評紙をそと後
中興因祖より廿一世傍圓海より明和
三年十月廿二日

桃園天皇弟二宮眼疾をしくと療治し
給ふ事 園寺の例より二宮(ま)す
敷感大くしむるにせしむるにせしむるに
毎年三月

禁裏浄所

仙洞浄所へ浄所禱の巻数を

御^{カテマツ}

たまへりて執奏廣橋

勅命^{オホミコト}

たまへりて南寺も六藏南坊太山寺とく

平^{ヒラ}

永禄九年二月信長公より給へる浄書に

多勢少辨吉政院文子坊南坊とくけり又永禄七年三

月^{ツキ}今^{イマ}の院号宣下以後勅書の靈場すい

眼科の宗源ともなりけりされども十八坊の増

頭十七坊とくして老しく田畠れ字すあり

大智坊一坊のみ今より相續しとくけり子舊

号^{ナニ}をねせるはきしむべし

本尊

藥師如來行基
作木佛座像

多寶塔

大日如來
惠心作

地藏堂

石佛
立像

鐘樓

銘云奉寄進尾州海東郡馬島村太山安
養寺霜鐘寬永十七年庚辰七月佛歡喜日明眼

院圓慶大工

藤原政長

樓門

寬文三年 瑞龍院君御再建
左右の二玉運寄作即為人寄附也

鎮守白山社

これ本國帳内社也

馬島天神社

神社の条より

五社

神明社
熊野社

勢田社
天王社

八幡社

辨才天社

稻荷社

惣門

又寺寶子

後水尾上皇より拜願の御會和歌の經冊

五十枚

並堂上家
の筆蹟

糸雲の教品ごとの

後水尾帝

陽光院の宸筆 御懐紙妙法

院堯然法親王三首和歌之竹如漢の名家

墨蹟のど枚奉子進

あは

又景清が鑑とひ
倣へるあはく唐楷小

細く修へるより色ハむし加賀藩中長三石島大坂御陣
のとき通て南玉よりわたり世に傳の通にわたり西条村まかき
修へるが此等の白山社子寄附せしと宝曆のころ
までハある寺にも此村民にもあるより修へるより

其心好ハ世傳を先ひてたゞ小京清ハ禮とのいひし
多し天保會記より按子長氏ハ其始祖ハ長谷
初信連より出て本因中島郡大塚村と傳へし
歴代波多子傳へりハ加賀族子孫て今も松加別
藩中子あり世長ニたれも其支族商孫多るべし
名字の長を天保會記ハ張と書ハ傳寫の訛あり
又この三島ハ京清の禮を傳へしハ傳寫の訛あり
其傳寫りハ松加別と京清とを傳へしハ傳寫の訛あり
具眼の人見あり
輕代介小

瑞龍院君 章善院君の御筆蹟又丸山

應舉ハ画障子類古画屋風の款是多

多し並既せり

塔頭 大智坊剣建年月未詳上ハ十八坊

中古ハ末妻等とありて先代清高迄お傳へし
多し天保七年申七月日海して傳へし

寺領 五十二石六斗ニ升七合内三十一石六斗ニ升
七合ハ寛永十六年 源教公御寄附あり

遍照寺

三本木村子ありて放光山とて剣建年月

未詳日ハ松葉山福泉寺とて春日丹

郡豊場村常安寺未詳曹洞宗あり

延享四年年天台宗とありて日郡馬島

村明眼院末寺とありて度像の河津陀

末とありて

東光寺

伊麦村子ありて茶王山とて馬島村明眼

院子所り創建年月ハ初^ノも郡
中類少^クの四寺^ヲて^テ同祀^ト一徹上人^トより一
徹^ハ天平十九年丁亥七月十六日^ニ遷化^スより一
去帳子^ニん^んえ伽藍地^ニて^テ十二坊ありし^も
四化子^ニん^んきり^り慶遵阿闍梨^ト中興^ト山^トん
慶遵ハ延文五年十月廿一日子^ノ方^ヲより^も
寺^ニ記^シし^也
府志子慶遵^ト
慶運^ニ誤^スり又^ハ綴^ル紀^一卷あり
き^もも^も是^ハ近世^ノ寺^ノ下^ノ子^ノ拙^モの^もき^く指^シる^も
心^ハい^へて^んん^んべ^ー妙村及^チ南寺^ハ古書^ニ符^合
あり^也あり^也列^子考あり^くは^しく尾張官社考^ニ

一乗院

之^り行^基作^とり^し茶^師茶^來を^なり^とん
甚^目寺^村甚^目寺^塔頭^{あり}

真言宗

甚目寺

甚目寺村にあり鳳凰山と云ふ名古屋空生院に末寺也

推古天皇の御代五年丁巳のとき

寺傳に六年と云ふ甚目龍麻呂妙子の海平より高寺

の本尊觀世音紫金形像を綱曳出奉り奉る其姓よりて甚目寺と云ふ緣起あり

創建年月ハ詳クハ細川出づる年月

此龍麻呂を同祖と云ふ

天智天皇の御代主上俄に御不豫の事あり
まゝに世親等の靈驗ありし事あり

天聰子達し遠く御祈禱ありけし事あり

向る爰想ありて忽ち御平愈ゆし事あり

敷感の御事ありし勅願寺たるべき倫有と云

下され左少弁兼威を勅使として御鏡を

御奉納あり又

天武天皇の御代白鳳年中に御起し十九年

誤り白鳳十五年小朱鳥と改元ありて明年持統
天皇の御代と云はば持統天皇四年即ち十九年

より其の庚寅より巳卯と改元し三間四面二蓋堂舎一
より白鳳八年なるものと云

宇御建立ありて東門に法皇寺と云願を
示しありと云

文徳天皇の御代仁壽三年癸酉八月八日

甚目連僧麻呂此僧麻呂即龍麻呂の子孫なり

ありて俗に細之元と云はば龍麻呂の子孫系統連綿
と相承して今もまほしき世に類せき回家あり又此僧麻

呂彼三家の意祖たるべき明洗ありて彼家譜よりせり
と云はれり

明命之後亂れり此地は日族といふ多しありき三代
實録より

姓を賜へりて連公
といふ姓ありて此龍麻呂家族の連の姓を賜へりて連公
といふ姓ありて此龍麻呂家族の連の姓を賜へりて連公

圓成家譜小中世連僧龍麻呂才三世連僧立麻呂才四
世連僧龍覺ありて其甚目連僧と云はば又其甚目

連僧麻呂とあるを混誤しり其甚目二字を有て直に連僧と

とくけふはくねるゆゑもつるまじく浩意とのぬてハリしも
さうすれどこれ古傳と誤りともひがめらるゝものもなき
て基月連の明とよみ人精舎一字を造言ぬ始て日
造言ぬべき

四年甲戌二月廿日主切終ぬて後

堀川天皇の御代康和五年癸未正月十七日

丁酉小散位藤原連長僧智能大江重房等代

ととめ寺家法傍地下人ホとひとく同心合

カしと造造の切と終て上棟せり又

崇徳天皇御代天治元年甲辰二月一日地震

小破塔しとて大治元年丙午御紀子午と
子とある壬午

庄下日散位大江朝臣為通并女及長谷部

氏人とてふととて終つてとて

後鳥羽天皇の御代建久七年丙辰二月

十日より日八年丁巳七月十日迄子聖観上人

幼色造言上棟せり又

土御門天皇御代正治二年庚申七月

廿六日より建仁元年辛酉十月十八日迄子

造言終り終つてとてとて文永元年

書も御紀子とてとて

推古天皇五年以本年出祝より今年天保

十五年迄千二百四十八年子あぶがとてとての

年席を修する寺院の宮子國中一宮双小して
四観音と修する寺の靈場此地の最才也

本尊 正觀音三國傳末闍浮檀金の真像秘佛と云
又堂内より行基の作と云ふ四天王像もあり

釋迦堂 木佛立像の釈迦
如来と安立

准泥堂 木佛座像の准泥
觀音と安立

藥師堂 木佛立像の藥師
如来と安立

十王堂 木佛立像の十王

地藏堂 石佛立像の地藏
菩薩と安立

開山堂 聖觀上人の木
像と安立

護摩堂 木佛立像の不動
明王と安立

三層堂 木佛立像の三層
明王と安立

鐘樓 大小二宇あり 鐘銘小江州西念寺鐘晨鐘響
遠振十方界夕梵聲廣度三有際三空久住四

生俱利天下恭平海内安全建武貳年三月廿日大
工藤原國安大檀那道譽住持比丘澄俊濃州大野郡
椋斐庄南方保今坂之御社御堂前鐘天下恭平
故也 文明三年辛卯閏八月日願主徳通御代官左
衛門尉橋永久とあり此大檀那道譽とあり八佐木佐
渡判官の法名也西念寺八道譽が遠祖佐木三郎兵
衛尉盛綱入た西念寺善提寺なり文明三年秋美濃
今坂社内よりと天文中信長公岐阜在城時當寺
此大鐘と磐石ありと寺の
時、後ハ岐阜本誓寺子傳あり

鎮守八大明神社

同山王社

白山社

茶所

仁王門

南門より縦五間半横三間半柿葺建久七年再建のまゝ今も残存す

原景時ののしり

東門

縦三間横二間半尾葺コノ自カ降カ法界門のまゝ

又寺宝五

天智天皇御寄附の八葉宝鏡一面御寄附

宝附宝劔一日御寄附緋紙金泥法華經

一部真如法親王筆蹟の弘法大師書

一幅北殿司筆涅槃像一幅是ハ萱津村下長者ガ母尼の寄附

ウリ五十二類のうち子尼一人あるハハの長者母ともカキ加へり

又藏書ハ古縁起久永元年新書写本

縁起永元年二卷御朱印三通御印

八通

性高院君御制札堂紙一通

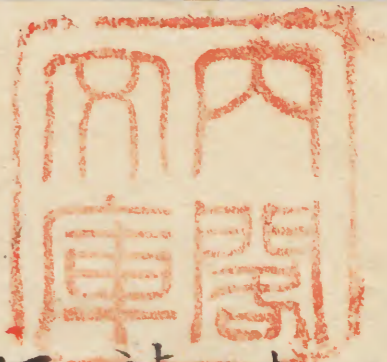
源敬公御制法堂紙一通御朱印紙

六通伊奈備前守寺領檢地帳一冊正保

二年寺順沙檢地帳一冊寺あり南寺

境内古圖一幅比丘尼所又鱈口も二つ

あり本堂の東西二の介後馬頼甚多



塔頭 一乘院天治宗 法華院真言宗也

東林坊 普門院 寶藏坊 光明坊

龍泉坊 成就院 性徳院 不動坊

福壽坊 甚目氏三家長海 此三家皆甚目氏

甚目氏麻呂が裔孫とて今も系統連綿と相承せし傳あり
之れを細之礼とすし之を宗とす之を祖とす三代実録に云く
甚目連公宗氏冬雄也とも同氏族なり
連と連公と異あることくは上より

比丘尼一坊釈迦堂

寺領 三百石 元和六年九月朔日 源敬公

蓮華寺

蜂須賀村より池鈴山より云々本寺也

嵯峨天皇の御代弘仁九年戊戌弘法大師乃

同基なり大師を下の熱田宮に奉祀の事記

子日の護摩を施すもしたる折予一大師を以

て勅使ありけしと大師自土より背像

とて熱田より上京せしよりて今

之を身代りの大師とせんぬ 勅用を

再び熱田より子日の乳を施すもしたるかくて

彼古像と熱田の契院に安置せしむる比

太神宮の靈告より西より予二の靈地あり

彼地より像を引きて衆生救済大なり

んとありしうむ大師即そま刀角を尋ね
求りし所に高須祭の表波靈告地相
ありしうむそまをいふありて伽藍を創建す
當寺にありしうむも此地毒蜂多くて里
民に患ゆるを大師加持してかの地を封
じしうむの塚と築し其後毒蜂の災害ふ
つよ止まりしうむかくて高須祭と改め蜂須
祭とす又閑伽井を掘けし地中より
五銛鈴と出て清水滴出り大なる池となり
白蓮花敷莖せしうむをいふしうむのいふ

池鈴山蓮華寺とすしうむのいふく
紀よるしうむ其存多年を經く堂宇衰敗
に及びしを

龜山天皇の御代文永元甲子年良敏上人
これと申身に良敏山城国岩手良因上人
此弟子なりあり岩手岩手岩手
即絶せしうむをいふ寺とあり

本尊

阿彌陀如来一丈六尺木佛
座像脇士觀音脇至各一丈

弘法大師御影堂

大師直
作像

護摩堂

不動明王
秘佛木像

地藏堂 佛林

聖天堂

秋葉堂

鎮守六社合殿 天王 八幡 焚田 白山 八釵 稻荷

辨才天社

經藏 豎二間 横九尺

瑜祇堂廢址 本堂五智如来先年焼失し其後あり阿弥陀如来一佛今子のこまなり

鐘樓

寺寶子弘法大師筆蹟の不動明王像同

筆光明曼陀羅同作十一面觀音木像大師

母公老髮名号五鉦鈴 福地井の内 松虫鈴

大師の所持 廿五菩薩来迎之図 惠心傍 菩提念珠 大師

持の所 兩界曼陀羅 大師 黄金舍利塔陣太鼓 昭

元亨元年辛酉九月十八日友原 藏書類子八縁起一卷 徑任勧進寺傍等沙汰兼蓮より

嵯峨天皇家筆經切寺領説状二通伊奈

備前守檢地説状一通 五味不在鳥説状一通

五筆般若心經 大師 一軸 舍利講式 聖宝傍一

軸 あり

當寺毎年二月廿一日より廿四日まで開扉

して音楽法會を執りて遠近の道俗示

詣多し

塔頭 大圓坊 創建年月未詳 僧良宣を中興
匡基と云ふ佛正像の不勅明王を本尊と云ふ

明社あり

寺領 五十石 元和六年九月朔日 源敬公
よりたまはるふよりしき津代と云ふ

實相院

津島天王社の社傍より本社の東北あり
創建年月詳くなくも開基を定圓法印
としし定圓ハ永和元甲寅年みまうりし
より位牌あり創建の年記もあらず
きりり永禄年中より信賢政中興と春日作と

しし茶師の茶を本尊としし寺寶子湛堂他の
愛珠明王運尊作の毘沙門天及興教大師
弘法大師等のかたし曼陀羅と云ふの信長公
これ法將の證狀多く信長より天王社内四
十七石九斗五升焼明田とししと引揚き

明星院

社傍よりあり天王社傍より創建年月詳く
ら餘ども開基僧放政ハ天長七年みまうり
し位牌より見えしハ此もやうし
安阿弥が作の茶師の茶を本尊としし

寶壽院

津島より天王社傍より創建年月志
しるす文和二年小幡実到中興寺智徳大師
の作より不動明王を本尊とす

観音坊

津島小幡より地あり創建年月志
しるす四々日郡見越村よりありて永正十二
年快祝法印中興寺より慶長十三年あり
よりありて社傍よりあり良無作より
木佛座像の不動明王を本尊とす坑内小

白山社あり是ハ昔々中より越村より遷座あり
神田六反五畝廿七ト除地より引地より元來
奉仕社ありあり白山社より屬して三輿山廻
向院より白号と称して天王社より牛王
山神宮寺観音坊よりあり也本尊不動
此像の坐下に應永六年己卯正月金剛佛
子良無が謔文あり

天王神順内九石六斗七升と云はれ地
実相院以下四院ハ皆天王社傍よりあり
牛王山神宮寺よりありて名古屋室生院の末寺也

寶幢院

土田村ツツあり放生山ツツの中嶋郡長世
村万徳寺の末裔の創建年月志し
長年中偽聖威中興と木佛坐像の不劫
明王と本尊とハ南寺ハ日村八幡社の社傍
社ハ三石の内二十五石と寺ハ

自性院

砂子村ハ阿ハ山成教寺ハ名古屋
寶生院ハ未寺ハ

文武天皇ハ神代大寶二壬寅年ハ基

傍ハの岡基ハ

同天皇勅給の靈場ハ南村ハ

西南の地ハ

此處を元寺原と云ふ境内二段
八畝六歩あり除地あり今も南寺

境内ハ成勝寺新善光寺楊柳寺自性

院ハ四院あり成勝寺ハ成教寺一山

岡基ハの草創ハ千手千眼観音を

本尊ハ大威徳明王ハ二體ハ昭侍ハ

或時此成勝寺より火災ハ此大威徳

烟中よりハ遙ハ本堂ハ蓮池ハ

二體ハ一體ハ永く給ハ

是霜と経て又荒廢ししと

後二條天皇建久五年甲寅四月のころ

北条四郎時政關東より上汝の府南寺本

より初形のみあり翌年下向の府にてに

逗留して宿願賽報のつ先堂塔を造営し

寺願を考附せ又本曾大夫坊貫明法師

も當山の衆徒として大般若經三帙を書写

すかくてあり

花園天皇の御代延慶二年己酉七月十日

大風逆浪よりて堂塔悉く激甚に破壊し

けしを勅令ありて當山修理の御教書と

成下弼弼園山本大夫より料足子傳貫文を

修り關東の小栗江系権左衛門尉も亦なり

悉く修造せられたるに

稱光天皇の御代應永二年丙申八月十六日

當山大坊より火災起りて當寺不統の堂室の

唐栴母合諸聖經類七千餘卷とあり

文武天皇勅額編有より御代々の院室令旨

御教書并寺家寄進帖百餘一紙も亦なく

礎尖しけるよりなり縁起旧記あり

るをとしむづくろしむべし

本堂

四間四面の基、作の本佛座像系師必来
を本堂とし、此本堂に本尊茶師佛也
一山中成徳寺あり
成徳寺新善光寺楊
柳寺既す、れ、のち自性院の、の、りて、本堂を、く、備
二寺の本堂、本堂の
裏堂、女並、に

鎮守天神社

社右の、今、南寺の、東、隣、あり
て、南村氏、社、あり、三所社、徳、田、社

鐘樓

鐘破、壊、し、て

鱈口

本堂附、銘云、尾州海東郡富田庄成願
寺、鱈口也、大檀那河崎右京亮直貞妻女文

明十八年丙午
二月十三日

金燈籠一基

本堂附、銘云、枳弥宮願人、賢永、大工
橋氏、名、久、木、代、永正十六卯六月吉日

縁起三軸

古縁起、續縁起
畧記

法性寺

新屋村よりて薬王山より

府志に、新谷、山、と
元禄七年

中島郡長生

村萬徳寺の末より創建年月詳る

一、法、よ、大、化、年、中、と、い、ふ、と、又、其、目、寺、永、禄、元、年、法、流、お
一、法、よ、大、化、年、中、と、い、ふ、と、又、其、目、寺、永、禄、元、年、法、流、お
一、法、よ、大、化、年、中、と、い、ふ、と、又、其、目、寺、永、禄、元、年、法、流、お

承したる日勢法印を中興の因裡に寺傳云

天智天皇勅衆の道場を

草創を、大、化、年、或、
聖観上人、と、い、ふ、に

天智天皇の勅一山内十二坊堂宇立變し、伽
藍、を、造、り、し、り、

藍地なりき物より連々に表取して字
頭寶積院阿彌陀寺本覺坊法藏坊四宇の
寺長の比まで現存せしが其後阿彌陀寺本
覺坊法藏坊三寺もくたれり寶積院と本
堂の土所なる境内よりついで今この寺号と
なせりといひ又經起ふ

孝徳天皇の御代大化年中此村人某深く
茶師佛と云ふ信し衆病悉除の偈文と漢語
此の事多年よてかの茶師の像を安置せ
るべく御書こひ祿ぐ一日一人の老翁某

アてて宿をこひひりくばゆるしぬは老翁もたゞ
茶師佛名を唱へ宿をよの志乃歌よひひり
きをたたく志願と語るに老翁我はこゝに佛工
なり彼像を刻てすまぬと云ふと宿を
恨むるものまうけも一七り彫刻切捨り
あるしに掛け家へいれ茶師菩薩也とて
消るがごとくまうぬかくては言ひ精舎成
いとらみ此尊像を安置せし靈驗あり
阿はらりいごと

天智天皇此御代もまうとて遂に勅給所

よーたまふりきて後

後鳥羽天皇の御時より後保元運當り今

として日光月光十二神將二天像を彫彫り

くく安坐し他は矢張り其場よりしと

正親町天皇の御代天正十三乙酉年十月

廿九日の大地震は堂塔とくく破壊し

遂に今れどくまふり本堂より一所ごり

南の方より二王門乃き趾日日一方一所ごり

大日堂一所佛翼の方には十王堂日日方二所

半ごり心弥勒堂二所ごり東方は阿弥陀堂

二町ごり坤ヒラシヤルの方より毘沙門堂のき改等あり

又殿塔せし法苑坊の本ごり基他の本佛

坐像の大日如来阿弥陀寺の中ごり并兩脇侍ハ

慈覺大師の他ごり本佛より本ごり存像眼

侍ハ立像又二王門の本佛立像の二王及弥勒

寺の弥勒菩薩立像本佛ごりみる尚然に

安坐し又小野小町の持念佛ごりひごり

如意輪観音金佛立像ごり安置せり

寛永八年二月赤
林高住寺附り

本尊

薬師如来
本佛座像

東照宮御堂

縦一丈八尺寺
横一丈六尺六寸 堂

此御堂ハ赤林次方馬の信久入道高伯の元
和二丙辰年

東照宮より賜りし御遺物の黄金を

用て造建したる也日六年庚申秋

源敬公御尊格の所為寺にて世御宮

造立此の御尊格より高住此出て

言上せし御威候ありし御深筆の

神號をとり賜ふの命ありし御尊

高住父子御供なり^{ソコニツラ}宅城せし御尊自

東照大権現と云字書せたまへる御神号

と下したるなりより御神号は納し

なりしと寛文三癸卯年

瑞龍院君より此御神号

御許候ありしき命より赤林治政の

小高寺住僧お流宅城してさげせむ

上流の人甚厚く貴き命どもありし

白浪女校御も他子例なり

御神號大切守護せむと云ふ

せし御尊の御尊政九年丁巳七月廿又の

神号と

神号ありて

神号ありて

神号ありて

神号ありて

神号ありて

縁起一卷

瑞竜院君より洋紙水也金を掃表後
筆抄表具金雲鈔子綿軸根

豊國大明神の神号一幅

秀頼公八
歳抄筆

赤林孫七郎画像一幅

天文廿二年八月
十六日戦死也

寺花と

光明院

日^キ盛村よりあり八幡山といひて南村八幡社

別あり名古倉室生院より創建年月

未^キの^キねど頼朝將軍の建立の^キりつ^キ之

い^キの^キり^キた^キれども^キの^キ縁^キさ^キら^キる^キに^キ長^キ十三^キ戊

申年圓峯法印再建也^キの^キ圓^キ峯^キを^キ中^キ興^キの

岡祖と^キり^キ行^キ基^キ作^キの本^キ佛^キ座^キ像^キ此^キ茶^キ師

ゆ^キ来^キを^キか^キき^キと^キの^キ寺^キを^キ發^キ子^キ明^キ惠^キ上^キ人^キ自^キ尊^キの

舍利講式殘編一冊あり其巻末に建保二年

正月廿七日夜七剋草之平沙門高每とあり

此書甚古雅有り自筆あり事類あり
又大般若經殘缺字本ありその二百二十一卷の
卷末に至徳武丙寅孟秋上澣日釈之智春拜書
二百廿五卷小釈之智春拜書二百七十六卷小右志
之為法界而已之曆應二年四月三日二百八十一卷
小曆應二年卯二月廿六日執筆琳聖坊觀宗^十年二
百八十四卷小享祿二^庚五月真勝三百九十卷小建
武五年^戌七月十日於尾州海西郡日置庄南一
色常福寺草庵如形書之了右筆安養佛
子覺忍五百七卷小日並庄若宮八幡大菩薩云

五百七十一卷小若宮八幡御社公用享祿四年辛
卯五月十日宗教多^くありけしち三百九十卷の
奥書に建武五年戊寅とあるは不審あれ
どもおのき考ありまづ建武三年小改元を
延元と有りぬ延元も又三年小改元有りて曆
應と有りさしは曆應元年と建武五年小
的^カ尚^カ修^カ延元曆應と二夜まで改^カしたる年
号を建武とせしもあるせるは尚^カ付^カい^カみ^カし^カ礼
せりし^カがかの改元の詔書通^カ辭^カもも途
中より^カり^カて^カる^カは^カ比^カる^カど^カも^カて^カは^カむ^カら^カん

龍照院

一して云知くざりし

須成村にありて蟹江山常樂寺より名古石
寶生院に末寺なり天平五年行基菩薩の
草創をて存壽永元壬寅年木乃義仲より本
堂并法伽藍十八坊舎等とて造立ありて
寺領も七十六町餘ありしが天正十二年蟬江合
戦の附兵火よりかりて堂舎僧坊退却せり
傳之り又一山十八坊の内十七坊廢して終ふ
は龍照院のまは坊をて今よ

本尊 杜佛 觀音 坐像

地藏堂 石佛 坐像

大日堂 木佛 坐像

鎮守三社 天満天神 弁才天 秋葉神

鰐口一口 本堂より銘云奉鑄鰐口尾州海東郡 富吉庄蟬江常樂寺常任也明應九年庚

申六月十八日施 主一阿弥敬白

又此寺花の日記に十八坊の願田と書くるもの
あり其文左れぬ

五所 龍照院 一町 寶珠院 一町 藥師寺

九反多室坊 九反大林坊 九反若林坊
 九反妙義坊 九反光苑坊 九反池之坊
 九反泉苑坊 九反東苑坊 九反焔明坊
 九反西之室 九反如意室 九反宝珠室
 八反吾生房 式反松壽房 ひくひ 不ひくひけい房
 五反 神樂田 三ノ倉 又
 右寺社形ハ 大崗橋正石上寺中退惣仕
 則沙朱平六六十二年心前申年 蟬江記之
 付央中ハあり此記ハ年号を記されども 蟬
 江記より六十二年を記せしむるは正保二年有

書こころありきなり

地藏寺

蟬江新町村ありき 浮島山天長院より名
 古屋寶生院の末より天文九庚子年 蟬江城
 之渡也与三新創建して初形所より 浮富林
 と園祖と云々本佛立像の北苑菩薩を本尊
 と云々又本佛立像の十一面観音及弘法大師
 と安置せり寺室は北殿の筆は不動明王
 一幅檀子曼荼羅一幅あり 法堂は白山
 社あり

安樂寺

野江本所村あり曾王山と云ふと東照
山といひしと即神号より獨りて避て元禄十
五年四月今の山号と云ふ名古殿宝生院の末
なり創建年月未詳に晉安三庚寅年
傍於快雅造管せりより中興乃因祖と云
弘法大師の茶木を彫刻^エしたるなり茶
所ぬ末を本宮と云ふ界内は杖系堂地蔵
堂あり

寶藏院

伏見村より云龍山不動寺より名古殿
宝生院の末なり創建年月未詳に永正
年中に汲範上人中興造管せり舊南院
院といひしと宝永七寅年今の名なり
基の作より木佛立像の地蔵菩薩と
本宮と云ふ境内は祇守稲荷社阿弥陀堂
ありあり

覺王院

万場村より曾王山と云ふ名古殿宝生院
此末より創建年月未詳に文禄年中に

僧勢傳再興造立せり木佛立像の子子親
音と本尊ととと

不動院

沙路村小ありて松尾山昌泰寺とて名
古屋室生院の末より創建年月あり
延徳二庚戌年政長上人再興造立せり旧ハ
松鼻山甘露王寺とていひしが後ハ大聖院と
正貴院とも改しと其存又替て今の号と
改号の年月
多ありと云木佛立像の不動明王と本尊と
坑内ハ天満天神社あり

吉祥坊

岡村小ありて青砂山とて曰而不動院の
末より創建年月あり木佛立像乃
不動明王と本尊と坑内ハ八剎社あり

千手寺

法業村小ありて長砂山とて曰郡蜂須
賀村蓮華寺の末也創建年月あり
承應年中ハ法印明増中興造立は寺ハ
以村の氏神白山社の社傍より石基の他
より木佛立像ハ千手観音を本尊とと

鐘樓あり又葵御紋附の御戸帳曰御紋
附御町あり是元文元年 丙辰七月三日
章善院君御元年とて御祈禱傳ふる系
宣揚院殿より申す御寄附あり

慈雲寺

半古馬新田村ありとて大慈山より地所賀村
蓮華寺の末より創建年月及岡祖を
本佛立像の地所菩薩と申すとて境内
及び有堂あり

文殊院

麻伏免村ありとて大聖山より地所賀村
蓮華寺の末也創建年月及岡祖を
正保元甲申年 僧快運中興に令佛とて
獅子の上より座像の文殊菩薩と申すとて
境内に法守秋葉社石像の三十三観音あり
とあり

光明寺

白濱村ありとて聖靈山より地所賀村
蓮華寺の末より創建年月及岡祖を
ありとて長八癸卯年 僧義海再建あり

よりて、教海を因基とせり。木佛社像の
阿弥陀如来を祀りて、其壇内は秋葉堂あり
薬師寺

高意寺村ありて、馬王山といふ地は、村
蓮華寺の末也。創建年月詳らざる。木佛
座像は、茶所如来を祀りて、其壇内は、志守
神明社地蔵堂あり。又三王門もあり。門外
に左右に弁才天社白山社あり。皆古寺。これ
を考ふる者、地はもと大寺なり。けむ形勢も
まど古傳を考ひて、まどくわくわく

吉祥寺

小神守村ありて、懐感山といふ地は、村
蓮華寺の末なり。創建年月詳らざる。地
にても式内懐感神社別當殿とて社号を
山号し、其末より古寺及神社郷家もとて、
大木村東南の地あり。正保五戊子年
去佐屋敷に設置、神場借馬名なり。せると記
南神守村といひ、其地は、西並よりて、北に
移りて、今今の立所より山の方より地あり
境内は、懐感神社神明社白山社三

神相殿の社あり

蘊徳寺

沖之島村ありて雲龍山とて増田村
蓮華寺の末なり創建年月不明
印と中興基といふ運慶作の系師等と
本寺といふ境内小天王社秋葉堂観音堂
などあり

延命寺

長瀬村ありて弥勒院とて増田村
蓮華寺に属す創建年月不明法印海

巻を中興基といふ本佛行基作といふ
地蔵菩薩像を本寺といふ又慶長に弥勒寺
の本なる弥勒佛をも堂内に安置し誌書に
秋葉社あり

普明院

花長村ありて花長山といふ中島郡大塚
村性海寺の末なり創建年月及開基此
像といふといふ金佛立像の河津院以来と本
尊といふ此本寺の御東に明徳九年申年七
月十日甚目寺仁王大工より尾州海東郡中

切なる清彩を泉阿弥と記し、その袖裏に道安
一阿弥妙法名阿弥とあり、又門前より石佛の
観音堂もあり

観音寺

今村にあり、紀伊守松山善福寺の末なり
創建年月因基の傳ともふ、古くは観世
音菩薩を本尊とし、境内に阿弥陀堂及び
法守白山の社あり

寶泉寺

↑萱津村にあり、古く長福山といひ、和州初瀬

小池坊の末寺也、創建年月不知、古き
本佛の座像の茶師以来を本尊とし、モト四ハ
高木より古くは本堂と別地あり、古くは元文
四年、今この地より、法守は愛宕社あり

禪宗

臨濟派

徳成寺

百町村小河りく神護山とく名古屋政
秀寺の末より創建年月未詳本佛
立像此茶師茶末と云ふと云境内法寺
社観音堂千鉢地藏堂あり

光明寺

西条村小河りく光白山とく中島郡妙
真寺村妙真寺の末より創建年月未詳
色はもと長明寺とく熱田法持寺

[Faint bleed-through text from the reverse side of the page]

の末ふて曹洞派なりしを後ふ改派して
今の名とし 改派改号の年
月未詳

慈雲寺

日村小沼よりく萬松山より熱田海國寺の
末なり創建年月未詳弘治二年再建
只今の地よりすぬり有の方ありしを
享保十七年今の地よりつきて本佛座像の
地藏菩薩と奉るとは境内は徳也天満天
神社観音堂などあり

同宗 曹洞派

興禪寺

泮島村よりありて宝珠山より能登國摠持
寺の末也應永三丙子年萬山和尚創建は舊
し今の地より八町ばかり七畝の方よりありて七堂
伽藍の靈場よりしは末寺も七十一ヶ寺
ありき後ふ天文年中火災よりかゝりて今
の地より移りしは像の系師ゆきをいふとん

常樂寺

日所小沼よりありて補陀山より能別摠持

寺の未なり創建年月志しは継覺和尚
と岡基とに本寺の座像の如意輪観音也
堺内小観音堂ありは是國内廿一番札所也

正泉寺

日村よりして津梁山より融別惣持寺の系
なり寛永十癸未年僧月桂創建と大徹
和尚と岡基とをり曰く真言宗より若林
山圓景寺といふよりと應永年中ふる宗に
改めて今の山号寺号とに候と云ふ此より二町
をがり東の方よりありしが延享四丁卯年

火災よりして存今の代より候と云ふ座
像の釋迦佛なり

雲居寺

日村よりありて龍吟山より白木興禪寺の
末なり永享十二庚申年服部伊賀守家継
うまを創建は寶山和尚と岡基とをり云ふ
と此像の茶所業あり

大慶寺

日村よりありて放光山より白木興禪寺の末
創建年月詳しは傍天菴と岡山とに天菴

永享の法の人也坐像の銘多し本寺と云
地藏寺

大田村にありて大安山と云り白布真禪寺の
末なり創建年月未詳天高を同山と
云く本寺に坐像の地純菩薩也

延命寺

田村にありて大安山と云り白布真禪寺の末
なり創建年月未詳

善昌菴

日^キ並村にありて迦羅山と云り白布真禪寺

の末なり弘治三年創建に坐像の地純と
本寺と云り

廣濟寺

桂^{カウラ}村にありて天極山と云り白布真禪寺の
末なり創建年月未詳天^ニ真和尚を因
祖と云り天^ニ真嘉吉元年辛酉八月廿八日に
本寺と云り織田大和守より寺領八町四反
歩と云り附一寺号の扁額を授けたり又天
文廿三年甲寅十月朔堂附の田畠先許の
地^ニ純と云り織田勘十郎^ニ遼成より賜るも永

祿六年十月伝書云々天正十年八月伝書
より左例の記述と相合せりも存豊長太田
の付天正十七年左記の寺伝没収せり
正観音を本尊とす塔院は東陽軒一
宇ありこゝに錦溪和尚を因祖と伝錦溪
寺祿元年十二月乃ちまゝなり

太平寺

戸田村にありて海印山とすは津島興禪寺
の末より和洞三年庚戌三月創建とす
元明天皇勅額の実場より行基菩薩と

因祖と伝世古八清原にありしを永享五年
よりふりては左の地誌に田氏某永真和尚と
請侍して建立し曹洞宗と伝は織田伝
長公の家臣内田三右衛門再建せり即
行基の作とし本佛立像の観音を本尊と伝
堀内は法守白山社とす茶師堂あり又本
尊は行基立像の形中は大檀那宿願寺に
及承宗光寺附せりしよりしるは薄紙と伝
人位牌もあり

養安寺

櫻^{コウキ} 沙村よりく、白鳥山より、沙村真禪寺の
まより創建年月志し、木佛立像の阿
弥陀如来と本尊とに

巖龍寺

百^{モト} 沙村よりく、吟光山より、沙村真禪寺
の末寺なり、寺長十六年、創建に吟
光巖龍と因祖と、木佛立像の釈迦如来と
本尊とに境内に持守秋葉社あり

龍淵寺

沙島村よりく、大珠山より、白布常樂寺

此末ち也、嘉吉元年、平野を以ての創
建して、仙岩和尚と因祖とに、本尊、立像の
如來輪観るなり

大吉寺

古^コ 田村よりく、富士見山より、春日井郡三
淵村正眼寺の末なり、創建年月志し、
とも久壽二年の、或は、水亭四年
九月、大將軍家^{足利氏 義教公}、富士沙流の、
山と名づけ、延平寺、とも、
山と名づけ、延平寺、とも、

修へしり

府志は永享十一年秋八月とあり

天文十五年二月竣工

寺の況状及修費相成りて亡失し

堂宇を廢せしとて天正十年修賢悦中興

造言しとて曰復ちりて賢悦と中

興閣基とありて春日作とて本佛座像

の大日如来ありて法守白山社地藏堂銀音堂

大日如来ありて法守白山社地藏堂銀音堂

東勝寺

追 間村ありて劍留山とて三間村正眼寺に

末寺ありて別建年月未詳とて修費未詳とて

本佛座像の基師如来とありて劍留の基師

とありて新羅の僧道行藝田宮の神劍を

盗出とて本因よりとて一付は處有りて

ておぬとて隠しとて一付は處有りて

秘返しとて一付は處有りて

邦の神道秘教百首抄にもありて

かくして中世堂宇を廢せしとて天正十八庚寅

年中興造立せりて境内に法守天満天神社

地藏堂ありてあり

菊泉院

二寺村あり、揚祥寺あり、三淵村正眼寺の
末寺あり、文祿元壬辰年正眼寺十二世周見
和尚創建より本佛座像の阿弥陀如来を本
尊とせり、境内に法号を海福寺殿前三品
相公月翁正印大居士とあり

正法寺

上萱沙村ありて日東山とあり、熱田法持寺
の末寺也、天平勝宝八丙申年唐僧東巖因基
創建、元和元年法持寺慶春和尚中興也

一、縁起より、座像本佛の十面観音
と本尊とあり、禪堂、観音堂、鐘樓堂あり、境内
にあり、又阿波子社、阿波子社及権薬師とあり
地なる、指系師堂とも尚寺とあり、阿波
子社の名を、菟香、抽、毎年二月初午に黒米
三斗、式外五合香、抽、菟三十二但籠一ツあり瓜
三ツ、茄子二ツ、蓼
一本、藁苞一ツ品上は柳箸十二本、竹棒三本也
熱田宮へ献進、元十二月廿二日に沙供米
七升、五合香、物菟十二、藁苞一詰品初午、神二
本とを献じり、也、又阿波子社の也、返魂

香塚ありて是も南寺堂なり

長禪寺

千音寺村よりして、無量山より、磯田法持寺
此未より創建年月云々、是は元和二年
法持寺六世傍大洋宗吞和尚再建、旧々
平田山極樂寺と云ひ、と万治元戊午
今此山号寺号と云ひ、と惠心の作と云ひ、と座像
本佛の阿弥陀如来と云ひ、と境内山法
守白山社あり、寺室に織田佐雄公より給
ふ、寺の境内あり

林昌寺

花常村よりして、金竇山より、勢田法持寺
の末より、創建年月云々、是は本佛座像の
新迦如来と云ひ、となり

東光寺

堀之内村よりして、島陰山より、勢田法持寺
此未之創建年月云々、是は運慶化乃
本佛立像の正観音を云ひ、と境内山法
守白山社あり

龍源寺

山^{タカ}分^マ河^{ジマ}村よりして王峯山より鑿田法持
寺乃末也創建年月不明本佛座像
此釋迦如来と云ふと此境内に法尊八
社あり

東昌寺

東條村よりして放光山より鑿田法持寺

此末より創建年月不明本佛座像
釋迦如来と云ふと此境内にあり

延命寺

坂卷村よりして佐羅陀山より鑿田法持寺

此末寺より創建年月不明本佛座像
源三位賴政朝臣造立のより傳へりかの
郷東南向の途中は病あり高寺乃
茶所末より社あり一々忽平念せしに
より長^{ナガ}牧^{マキ}本に二村と名付ありなり
傳へり本佛座像の地乳菩薩と云ふ
是ハ惟康親王の作と云傳へ法守金毘羅
社境内よりあり又別地は茶所堂あり座像
本佛は茶所末と云ふと此より彼に
政親臣の守切と云ふと十三神像ハ

運當が作るなり是又新改口の寺附の
心傳へり

玉泉寺

川原村よりして延命山より桂村廣濟寺
の末寺なり天正六戊寅年の創建とて悟
悟笑と因祖といひ地蔵菩薩とありといひ
法寺に十一面観音堂あり

長光寺

我部村よりして東命山より桂村廣濟寺
の末寺なり永禄年中創建のよりいひあり

本佛は像れ釋迦如来とありといひ法寺に
秋葉社あり

勝林寺

金柳村よりして四宝山より桂村廣濟寺
の末寺なり創建年月ありといひ基れ作と
いふ阿弥陀如来とありといひ

松秀寺

須成村よりして桂村廣濟寺の末寺也創建
年月ありといひ

心樂寺

新^ニ家^ハ村^ニにあり東林山とあり高砂子音寺
村長禪寺の末寺也創建年月未詳長
禪寺二世即宗系徳和尚と因基とに立像
本佛の河津陀め来とありとあり銀侍ふ
立像本佛の銀音勢ふあり

玉泉寺

福系村ありと浩照山とあり海西郡赤目
村一心寺の末寺なり慶長十乙巳年信林虎創
建なり信易淳を因祖とに本佛立像の地
花菩薩とありとに境内に八幡社あり

乞^ハ苗^ハ村^ハの氏^ハ神^ハ也^ハ苗^ハ寺^ハ社^ハ勢^ハと^ハあり

建宗寺

中島村ありと廣嶽山とあり春日井郡
豊場村常安寺の末寺也文明三年卯年
安井將監創建と本佛坐像の釈迦の末と
ありとに法号白山社あり又安井將監墓
所及位牌もあり

直心寺

秋^キ竹^{タケ}村^ハありと少林山とあり美濃國可兒
郡中郷村安養寺の末寺也創建年月

開基ともふき、建仁座像本佛乃智如
来と申す、其の徳もふ、秋葉社、観音堂あり
境内あり

浄土宗

長福寺

系、苅村ありて法性山といふ、京師知恩院
の末寺也、創建年月あり、修安清を
因祖とす、其の本佛坐像の阿泥陀如来
あり、境内に法智弁才天社及観音堂あり

福常寺

依屋村ありて八幡山といふ、系知恩院の
末寺あり、慶長五年庚子春、誓故上人創建
して、即誓故庵といふ、寛永十三年子月

今の寺号ともなり本佛三像此阿弥陀如来
と云ふとも鐘樓堂金毘羅堂及法守
八幡社あり此神像天正四年丙子三月九日
織田信長公沙^{ツカラ}自彫刻し之りとも其後寛
永十五年戊寅三月十六日此地不^{ツカラ}移りし
てより

大龍寺

津島^{ツノ}永^サと世と^{トコロ}地ありと亀伯山と
京都光明寺禪林寺あり寺の末寺なり
永享年中守良王君父征夷大將軍守良親王

の香華道場と創建を^ミと^ミなり親王
後醍醐天皇此皇子と^ミ應永三年甲辰
八月十五日伝法^ミ並合の合^ミ致^ミ致^ミて伊奈の
大河系と自叙し^ミたま^ミり事蹟は信濃宮
傳及尚寺^ミ起^ミ起^ミし^ミけ^ミと^ミは^ミ處^ミなり
せり合^ミと^ミり^ミ知^ミべ^ミし^ミか^ミそ^ミ天文の^ミ以^ミ太^ミ巖^ミ宗
讚和尚再建あり^ミと^ミり^ミ太^ミ巖^ミと^ミ中^ミ丹^ミ宮^ミ
と^ミり^ミ本^ミ尊^ミの^ミ慈^ミ母^ミ大^ミ師^ミの^ミ化^ミと^ミり^ミ本^ミ佛^ミ座
像の^ミ阿^ミ弥^ミ陀^ミ来^ミる^ミと^ミり^ミ境^ミ内^ミは^ミ法^ミ守^ミ神^ミ明^ミ社
あり又寺^ミ家^ミに^ミ宝^ミ樹^ミ院^ミ一^ミ宇^ミあり^ミ創^ミ建^ミ年

月去る水む

瑞泉寺

日所下構^{シモガマ}内^ナ新^ニ入^リり地ありて鏡池山
と^りふ^る京^ノ於^テ光明寺禪林寺也寺北末寺なり
創建年月詳^{サカ}々^ニ曰^ハ天王^ノ御^ノうち福^徳
少^シ始^トり^テふ^ルあり^テ境^地は鏡池と^りあり
即^チ山^号なり^シたり^シと^シて^シ永^正十四^丁七
年僧壽慶中興^シて^シ以^テ屬^ス^ルなり^シなり^シ良
親^王の^御子^正二位大納言良王明應元^壬子^子
年三月五日^日所^由て^シ甚^カク^シ也^ト後^ハ法^号

瑞泉寺殿正二位亞相良王大居士と^りり^し
即^チ香^華此^レ道^場と^りり^して^シ創^建し^りたり^し寺^号
乃^ハ彼^法号^と寺^号と^りり^し也^ト即位^牌あり
之^レ先^年火^災に^テ失^セり^シ後^ハ又^レ造^修
たり^し也^ト迎^之の^{もの}也^ト本^佛座^像の^所在^院如
來^と布^とる^とは^は地^内に^は法^号八^幡社^{あり}
寶泉寺

日所^由を^りり^し地^はあり^て飛^龍寺^とり^り
光明寺禪林寺兩寺の末寺也創建年月
詳^々と^りり^し禪^林寺^とり^り源^悦と^りり^し天

文四年己未三月十三日力まする惠心作より
本佛立像の阿弥陀如来と云ふと云り法華の
伊勢春日八幡をお殿としたる社のり

法藏寺

中楊村よりて珠意山よりて系助光明寺
禪林寺西寺の末より創建年月云々此は僧
良慶を因祖とし云ふ金佛立像の地蔵
菩薩像あり堀内小持寺秋家社並三十三所
銀名もあり

地藏寺

下切村ニモありて妙周山よりて系助村長福
寺の末寺なり創建年月云々此は本佛立
像の阿弥陀如来と云ふと云

光明寺

宇治村よりて徳寶山よりて系助村長
福寺の末寺也創建年月云々天文九年
六月力まする僧叡清を因基とし云ふ
惠心の化とし云ふ本佛立像の阿弥陀如来あり
堀内小三十三所の銀名堂及法堂并才天
社ありあり

大徳寺

蛭間村ありて法厨山とて系苧村長福寺の末より創建年月未詳に傳安清と中興開基とて聖徳太子の作とて在像の河津陀鉢末とてなり

正念寺

丹波村ありて法傳山とて系苧村長福寺の末より創建年月未詳なり

善福寺

大井村ありて清應山とて系苧村長福寺の末より創建年月未詳なり

寺の末寺也創建年月未詳に其後中興の岡祖俊甫和尚の付河原佐々更再建造言あり本佛立像の河津陀鉢末と本尊とて在境内に釋迦堂及法守社あり

桑光寺

篠田村ありて日照山とて系苧村長福寺の末也創建年月未詳に本佛立像の河津陀鉢末とあり

明安寺

寺地村ありて大日山とて系苧村長福

寺の末寺也創建年月さぶらるるに

圓光寺

長^{ナカ}牧^{マキ}村にありて崇敬せしむる古屋
中寺の末より創建年月さぶらるるに本佛座
像の阿弥陀如来を祀るといふに

法然寺

戸田村にありて快教せしむる古屋西光院
の末より創建年月さぶらるるに西光院五世
快空教然を中興祖とて坐像本佛乃
阿弥陀如来を祀るといふに

西方寺

泮島村にありて岳翁せしむる古屋世高
院の末寺也創建年月さぶらるるに旧^{モト}指^{ササ}法^{ホウ}河
小ありしと延享四年卯土月今の地より
本寺の本佛坐像の阿弥陀如来より塙内より
十王堂あり

弘浄寺

田所にありて白鳳山とて古屋阿弥陀寺
に末より創建年月さぶらるるに悟光春と中
興國基とて本寺の本佛坐像の阿弥陀如来

あり塘内小茶師堂もあり

法應寺

海邊山と云ふ名古屋

西光院の末寺也享徳三年甲戌十月の剋

建少く傍乘運と因基とせり運慶が他の

阿弥陀佛と云ふと云

誓願寺

淡島村にありて大光山と云ふ日本瑞泉寺

此末寺なり剋建年月知るべし本佛在像

西の阿弥陀如来と云ふと云

静久寺

若田新田村にありて寂興山と云ふ名古屋

阿弥陀寺の末寺也

圓成律寺

中一色村にありて慈興山と云ふ京都知恩

院の末寺なり剋建年月知るべし

安永和年中の古碑ありて古刹なり

関通和尚浄土律と真隆と云ふ

より元文元年まで其事必執り大將軍

より元文元年まで其事必執り大將軍

家及国廳の清ゆるしとせり。弘を改めて今の
山号寺号とせり。くくく。関通和尚の業
池にんやとせり。

貞壽寺

此處今市場にあつて寶池とせり。申一色
村圓成津寺の末とせり。尼僧也。今寶曆九
年己卯九月尼慈生創建して今の寺号と
せり。とせり。慈生尼と関基とせり。

時宗

時宗

光明寺

中萱沙村のりて横笛山とせり。相模國藤澤
將清淨光寺の末寺也。弘安五年遊行
弘元祖一遍上人の才子也。阿真教上人創建に
梅華無盡花と尾陽茅津道場云々。國
傳記に永和年中尾張國萱津の道場也。
衆徒洛陽七條也。に用のりて上流と云々。
春日作とせり。
本佛立像の阿弥陀如来と云々。

鎮守天満天神社

飛梅天神と云ひ今下画像之

正和二年は嵐に移り、寛永十二年九月尚寺焼

亡の時に神影火中をまぬく事なく、庭前の松樹もかり、

神影恙多かりしと云ふ事ありて、其様を今も天神松といふ、毎年

二月廿五日、田圃中、府志には、影像唐画の鐘、植ふ、此の

菅神とあり、金子百両を下し、瑞龍院君

皇子り、同四年ニマ九勅解、由、山、院、君、も、ふ、り、く

此、諸、家、と、なる、一、ま、り、り、

即、宗、敬、あり、ゆる、が、奥、州、柳、川、即、平、信、の、存、派、即、信、厚

くて、毎年、即、初、穂、令、拾、あり、下、り、り、又、春、心、院、君

小、も、此、神、影、の、希、有、なる、り、り、即、破、り、る、く

即、得、護、あり、べき、事、り、り、即、使、者、あり、り、り、り、

申、上、け、る、事、り、り、り、

小、細、産、朝、比、志、守、吉、田、水

より、の、書、状、今、り、り、り、

又愛宕社白山社と云、鐘樓もあり、

比小救の香おとと、の、金、一、宇、あり、六

同半横 三 間、堂、障、毎、毎、七、畝、一、歩、あり、て、除、地

夕、り、乞、小、附、り、り、田、畠、二、反、二、畝、廿、二、步、除、地

あり、尚、寺、と、云、を、引、込、り、又、境、内、に、牧、左、邊

太、丈、義、次、の、墓、所、あり、り、松、引、地、小、愛、宕、社

白、山、社、と、も、あり、て、尚、寺、に、社、務、と、云、り、

寺、領、高、拾、石、伊、予、備、前、寺、院、文、あり、

西福寺

伊予備前寺院文あり、伊予備前寺院文あり、

江州番場驛蓮花寺の末寺也貞和四戊子
四年弥阿上人創建と云阿即當寺の因祖
なり本佛立像の阿弥陀如来と云ふなり
堀田氏歴世の菩提所して孫右忠の正貞
同人妻同帶刀正秀同妻女等此位牌あり
又境内小十王堂もあり

蓮臺寺

曰所小沼ありて九品山と云ふ江州番場宿
蓮華寺の末也貞和年中因山阿弥陀
弥阿の元祖遊り一遍上人の弟子なり浪合

此小相控玉名澤遊りの弟子良王の御供して
尾州津島小岳住せり後々蓮臺寺と建立
せしあり本佛立像の阿弥陀如来と云ふ
は境内小社守八王子社あり又信長公及
信忠卿の寺願院状なりあり

觀音寺

曰所小あり曰蓮臺寺の末なり創建年
月未詳と云はれしと光澤庵と云ふと云保世
年乙卯十月今の号と云は境内小觀音堂阿
彌陀を先年大火災なりて今小再興せ

どく子本堂の六本堂小安堂より木佛三像の
阿弥陀如来と本堂とに



[Faint, mostly illegible handwritten text in cursive style, likely bleed-through from the reverse side.]

小田切傳之丞忠近謹圖
杉本愛七良承謹書



休本齋子身和齋書
公田以獻之至忠正齋圖

